

# 前 田 VII 遺 跡

(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店社屋  
増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

## 序

前橋市は、雄大な裾野をひいてそびえる赤城山を北方に望み、利根川が豊かな水を湛え貫流する「水と緑と詩のまち」の県都であります。

自然環境、歴史・文化遺産の保護や生涯教育都市を目指し教育文化、商工業の調和のある街づくりを進めています。

古代文化の栄えたこの地は、今から3万年ほど前の旧石器時代から人々が暮らし、先人の残した文化遺産が広く分布している地域であり、その足跡が悠久の時の流れを刻んでいます。とりわけ本遺跡周辺には、朝倉、広瀬古墳群があり金冠塚古墳や国指定史跡の八幡山古墳などが点在し、当時の繁栄をかいま見ることが出来ます。平成3年に実施した、(株)エヌ・ティ・ティ中央移動通信群馬支店の社屋工事に伴う埋蔵文化財発掘調査以来、3回目となる今回の調査も、社屋増築工事に先立って行われたものであります。調査では、平安時代の住居跡1軒と土師器、須恵器、灰釉、緑釉陶器などの遺物が検出され、この周辺の埋蔵文化財の分布状況をとらえるうえで貴重な資料を得ることができました。最後に、この調査報告書を刊行するに当たり、関係各機関並びに本遺跡周辺地域の方々のご理解と御協力に対し厚く御礼申し上げます。

平成12年11月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団 長 阿 部 明 雄

## 例 言

- 1 本報告書は、(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店社屋増築工事にさきがけて実施した<sup>74</sup>前田<sup>75</sup>罹<sup>76</sup>遺跡<sup>77</sup>の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市東善町123-1番地
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団(団長 阿部明雄)の指導のもとに委託者、(株)エヌ・ティ・ティ・ファシリティーズの委託を受け、スナガ環境測設株式会社(代表取締役 須永真弘)が実施した。  
調査担当者 飯田祐二・真塩明男(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)  
萩野博巳(スナガ環境測設株式会社)  
調査員 小見修一(スナガ環境測設株式会社)
- 4 発掘調査期間 平成12年9月20日～平成12年10月15日  
整理期間 平成12年10月16日～平成12年12月7日
- 5 調査面積 153㎡
- 6 出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永真弘、調査助言…金子正人、測量…板垣宏・小見修一、安全管理、重機オペレーター…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。
- 8 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…萩野博巳、編集・校正…須永真弘・金子正人、実測図の整理他…小見修一、遺物実測…佐々木智恵子、遺物洗浄・注記・接合…柴崎信江、渡辺國治 写真整理・内業事務…須永豊・柴崎信江が担当した。
- 9 発掘調査に参加した方々(敬称略)  
石川サワ子 内山恵美子 内山 康 内山みさを 中川住一 水石信雄

## 凡 例

- 1 遺跡の略称は、12G7である。
- 2 遺構名の略称 住居跡…H、土坑…D、柱穴…P。実測図中の記号 P…土器片、S…石。
- 3 実測図の縮尺 遺跡全体平面図 1/200、住居跡 1/60、土坑 1/60、柱穴 1/60、遺物実測図 1/3、1/5、を使用。
- 4 挿入図は、国土地理院発行の5万分の1「前橋・高崎」を使用した。
- 5 各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点と照合済。基準点A-6グリッド地点 第Ⅷ系座標値X38,038m、Y-63,092m、水準点 BM…77.00m、等高線 5cm、グリッド4m間隔
- 6 土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版標準土色帖」(農林省農林水産技術会議事務局 監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修)による。
- 7 須恵器の断面… 施釉部分… を使用。
- 8 遺構の面積は平面図をもとに座標面積計算より算出した。

## 目 次

序	i
例 言	ii
凡 例	ii
目 次	ii

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と歴史的環境	1
1. 遺跡の立地	1
2. 歴史的環境	1
III 調査の経過	3
1. 調査方針	3
2. 調査経過	3
IV 層 序	4
V 検出された遺構と遺物	4
1. 概 観	4
2. 平安時代の住居跡	5
VI まとめ	5

## 挿 図

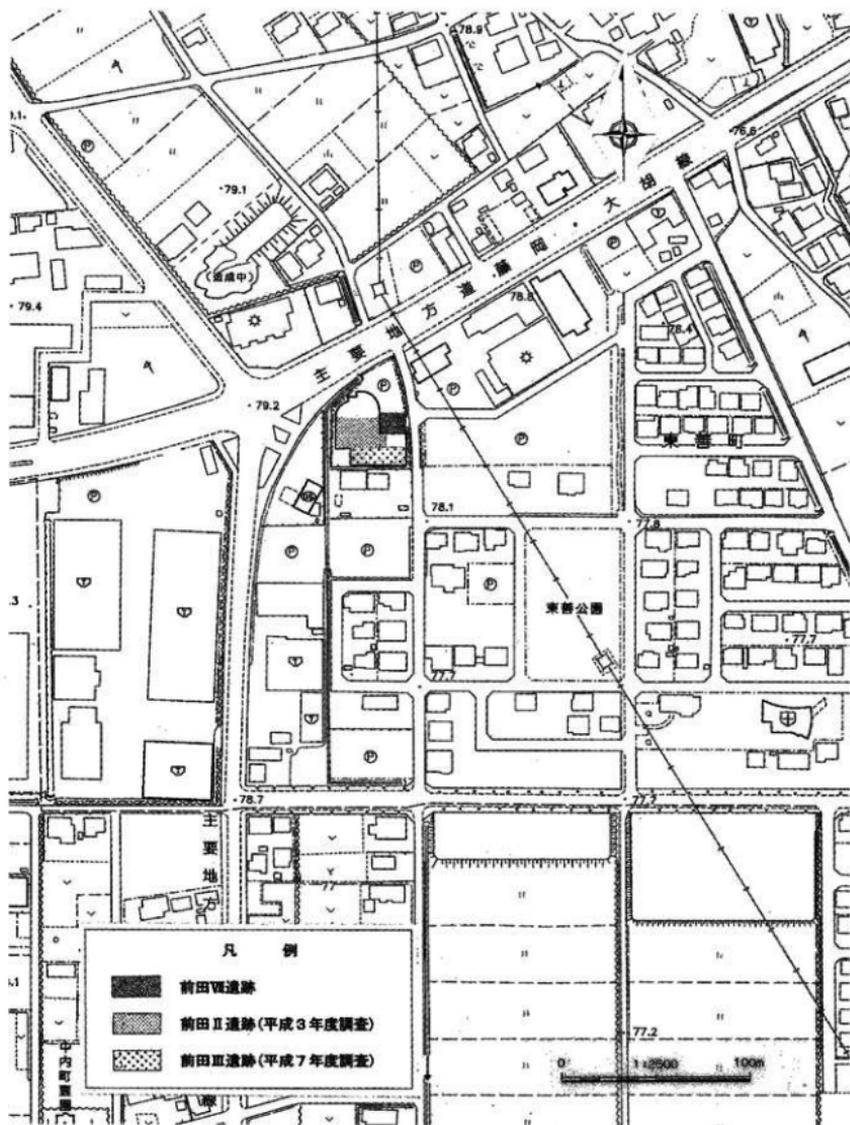
第1図 遺跡位置図 (S=1:2,500)	iv
第2図 周辺遺跡図 (S=1:50,000)	2
第3図 発掘調査経過図	3
第4図 基本土層断面図	4
第5図 前田VII遺跡・前田II遺跡・前田III遺跡・遺構検出状況関連図	7
第6図 H-1号住居跡、P-1、D-1、H-1号住居跡掘り方実測図	9
第7図 遺物実測図	10

## 表

出土遺物観察表	6
---------	---

## 写真図版

図版1 調査区現況(東より)、表土掘削状況、遺構確認面掘削状況、深掘り状況、作業状況、作業状況、調査区カクラン状況、H-1号住居跡全景(北から)、
図版2 H-1号住居跡遺物出土状況、H-1号住居跡遺物出土状況、H-1号住居跡遺物出土状況、H-1号住居跡遺物出土状況、H-1号住居跡 P-1セクション、H-1号住居跡 P-1 遺物出土状況、H-1号住居跡 P-1 完掘、H-1号住居跡 D-1セクション、
図版3 H-1号住居跡 D-1 遺物出土状況、H-1号住居跡 D-1 完掘、H-1号住居跡 完掘、H-1号住居跡掘り方セクション、H-1号住居跡掘り方面遺物出土状況、H-1号住居跡掘り方完掘、調査区全景(東から)、調査区全景(北から)、
図版4 前田VII遺跡出土遺物



第1図 遺跡位置図

## I 調査に至る経緯

前田Ⅶ遺跡は鶴エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店社屋増築工事の建築許可申請について鶴エヌ・ティ・ティファシリティーズから市教育委員会に事前協議があり、市教育委員会では平成3年度に実施した前田Ⅱ遺跡及び7年度前田Ⅲ遺跡の調査区に隣接する部分のため、開発事業者と協議調整のうえ発掘調査を実施し、記録保存する事になった。調査は、前橋市教育委員会のもとに組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立ち合い指導のもとスナガ環境測定株式会社が行った。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

### 1. 遺跡の立地

本遺跡は、前橋市の中心市街地から南東へ約8kmの東善町交差点、南東側にある。北側に主要地方道高崎・駒形線が東西に走り、西側に、主要地方道、藤岡・大胡線が南北に走る。遺跡の500m程南には、北関東自動車道が建設され、また、東方約300mには一級河川荒川が南流し、西側に位置する藤川と共に南部農耕地帯の重要な河川となっている。周辺地域は、主要地方道も整備された昨今、通運、運輸、倉庫などの大企業の社屋も立ち並び、市街化が進むにつれ遺跡の周辺は住宅街へと進化している。

荒川の右岸に沿ったこの地域は前橋台地の先端地域に位置している。この台地の組織構造は火山泥流堆積物(前橋泥流堆積物)と火山灰シルト粘土質(水成上部ローム層)により形成された緩傾斜の洪積台地である。台地の北東縁は利根川の旧流路に当たり、幅3km前後で帯状の沖積低地が北西から南東へ広がる広瀬川低地帯である。赤城山南麓西端斜面と榛名山麓東斜面先端の先端を流れる利根川は前橋台地の北側に沿った附近を流路としていたが室町時代の応永34年の大洪水などにより現在の泉庁の西を流れる現利根川として遺跡の南方3.2km地点を南東流し、広瀬川、端気川、藤川、荒川などの河川が合流している。

### 2. 歴史的環境

本遺跡の所在する前橋台地上は、水成ローム層が厚く堆積し一面が湿地性の環境であったとされている。そのため旧石器時代から縄文時代・弥生時代にかけては人々の生活に適さなかった場所と思われ、人跡はないとされていた。しかしながら、平成6年の調査では、棚島川端遺跡において縄文時代草創期後半の掘糸土器片の検出があり、同じく徳丸仲田遺跡でも微隆起縄文土器の破片や尖頭器が出土し、この点に関しての再考が迫られてきている。棚島川端遺跡では、弥生時代後半の遺跡も確認されている。古墳時代前期では、東毛の利根川流域の赤城山南麓地域に見られる樽・赤井戸系土器の弥生時代とは異なる外来の文化が入ってくる石田川式土器を使用し、生活基盤を農業生産に移行した集団が、本遺跡周辺の前橋台地上にも見られるようになる。住居跡が検出された後岡団地遺跡・東田遺跡など微高地縁辺部に位置し、後背湿地を開発している。また、西横手遺跡・公田池尻遺跡は、As-C軽石で埋没した水田である。古墳時代後期では榛名山起因の大噴火が2回あり、Hr-FAやHr-FP降下堆積物などで覆われた小区画水田の検出が相次ぎ報告され、この時期の水田の様子など解明されつつある。また、鉄製品の普及や農業技術の進歩により耕地や集落の拡大も人口増加と共に著しくなる。小区画水田は、公田東遺跡・横手湯田遺跡などに検出されている。集落跡では、後岡団地遺跡・後岡Ⅱ遺跡・川曲遺跡・坊山遺跡などで、微高地縁辺部に立地している。また、前橋台地の東端附近の広瀬川低地帯と呼ばれる広瀬川(利根川の河跡)右岸の崖の上には市内でも有数の古墳群が出現する。4世紀後半築造の八幡山古墳(前方後方墳)、三角縁神獸鏡を出土した前橋天神山古墳(前方後円墳)、6世紀前半の亀塚山古墳(帆立貝式古墳)、6世紀後半の

金冠塚古墳(前方後円墳)、7世紀の経塚古墳(円墳)などと文珠山古墳(円墳)などに代表される古墳があり、朝倉・広瀬古墳群の文化を支えた地域との関連がうかがえる。律令期に入ると元総社町に国府が造営され、その南東に位置する遺跡地周辺は穀倉地帯としての役割を持つようになる。

As-B軽石(1108年降下)に埋没した水田跡には、条里制地割が想定される公田東遺跡・公田池尻遺跡などがあげられ、宮地中田遺跡では、東西と南北に走行する坪境畦畔も検出されている。また、西田遺跡では大畦畔や道路状遺構も検出されている。奈良・平安時代の集落跡では、後閑団地遺跡・後



- |              |          |           |           |           |           |            |
|--------------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1 前田河遺跡(Ⅱ・Ⅲ) | 2 前田遺跡   | 3 文珠山古墳   | 4 金冠塚古墳   | 5 亀塚山古墳   | 6 前橋天神山古墳 | 7 坊山遺跡     |
| 8 八幡山古墳      | 9 後閑団地遺跡 | 10 後閑Ⅱ遺跡  | 11 鎌倉川降遺跡 | 12 公田東遺跡  | 13 公田池尻遺跡 | 14 笹岡内城内遺跡 |
| 15 川曲遺跡      | 16 東田遺跡  | 17 宮地中田遺跡 | 18 西横手遺跡  | 19 横手溝田遺跡 | 20 西田Ⅱ遺跡  | 21 徳丸仲遺跡   |
| 22 西野尺Ⅱ遺跡    | 23 経塚古墳  | 24 新田浜遺跡  | 25 神人村Ⅱ遺跡 |           |           |            |

第2図 遺跡位置図

閉Ⅱ遺跡・神人村Ⅱ遺跡・柄田添遺跡などあり、平安時代では、前田遺跡・前田Ⅱ遺跡・西善尺司Ⅱ遺跡がある。中世以降では、中世末期、築城様式を持つ宿阿内城内遺跡がある。本遺跡周辺の調査事例が増えるにしたがって各時代にわたり人々の生活の痕跡が多く存在する地域といえる。

### Ⅲ 調査の経過

#### 1. 調査方針

調査対象範囲に、4m毎に小グリッドを設定した。東西方向に延びる、緯線に直交する経線を算用数字(1、2、3、……)で、南北方向に延びる、経線に直交する緯線をアルファベット(A、B、C、……)で付称し、グリッドの呼称は北西隅の名称を利用した。また水準は公共水準点に基づき調査区内に測設した。

図面作成は、1/20、1/100.の縮尺を使用し、平板、遣り方による細部測量で作図を行った。遺物は、遺構グリッド単位で層位毎に収納し、遺物分布平面図・遺物台帳に記載し付番処理して収納した。また、遺構・遺物等の写真撮影(白黒・リバーサルフィルム)も行った。

#### 2. 調査経過

発掘調査は平成12年9月より現場事務所の設置や発掘調査用具の搬入などの準備を行い、9月20日より現地にて立会、調査範囲等の指示を受け作業に入る。また、道路に面している部分があるため安全に務めた。調査は指示に従って重機(バックホー)を使い表土掘削を実施した。その結果、住居跡を検出した。9月25日から遺構の発掘を開始する。また、調査区内にグリッド杭、ベンチ杭を設定し、測量作業に入る。その後、遺構の測量、写真撮影、遺物取あげも行った。

10月11日より調査区全体平面図とコンター測量図の作成を始めると共に、高所写真撮影も行い遺構の調査も10月13日に終了した。

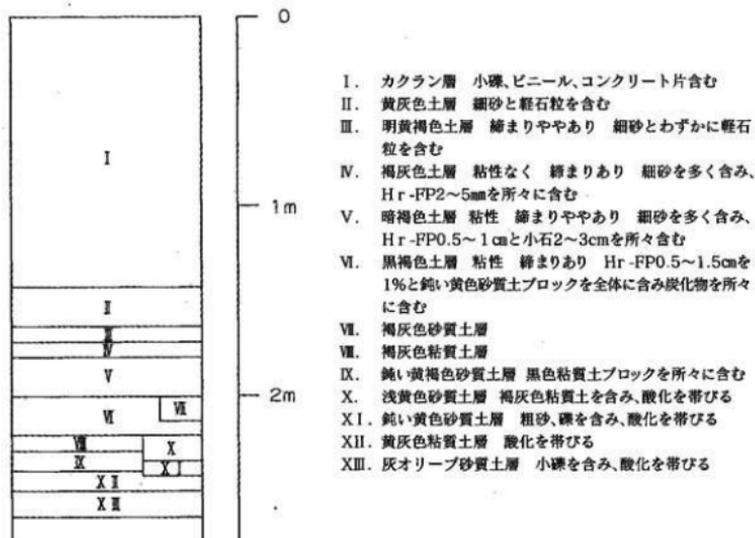
また、調査区に深掘りトレンチを入れ土層堆積状況も調査した。さらに市調査団の指示を受けて重機による埋戻し作業を開始した。10月15日より、資材の撤収も始めた。

月 作業	9月	10月
表土掘削 プラン確認	■	
遺構確認 掘り下げ	■■■	
測 量 写真撮影等		■■■■■
埋 戻 し		■

第3図 発掘調査経過図

## IV 層 序

層序は、深掘り土層断面をもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。



第4図 基本土層断面図

本文中に使用した略号は以下の通りである。

- ・As-C軽石：4世紀降下浅間山起因の軽石層
- ・As-B軽石：1108年降下浅間山起因の軽石層
- ・Hr-FA：6世紀初頭降下標名山起因の火山灰層
- ・Hr-FP：6世紀中葉降下標名山起因の軽石層

## V 検出された遺構と遺物

### 1. 概観

本遺跡は、(株)エス・ティ・ティ・ドコモ群馬支店社屋増築工事の調査であり3回目となる。また、盛土部分が厚くカクラン部分が遺構確認面まで達している範囲が多くあった。検出した遺構は、平安時代住居跡1軒と床面から柱穴、土坑等が検出された。遺物は、調査区全体で須恵器、土師器、緑釉陶器など総数310点検出した。

## 2. 平安時代の住居跡

### H-1号住居跡 [第6図、図版1～3]

調査区の北西寄り、B-6・7グリッドに所在する。確認面は標高79.15mで造成盛土部分から175cm程掘り下した下にある。

覆土の主体は粘性、締まりのある黒褐色土で堆積している。住居跡の形状は長軸(東西方向)3.23m、短軸(南北方向)2.97mの方角を呈す。

長軸方向はN-94°-Eである。壁は確認面から20～24cm程掘り込んで床面に達し、垂直に立ち上がる。床面は黒褐色土に黄褐色砂質土ブロックと炭化物を含むやや凹凸であるが硬く締まった貼り床である。床面積は8.08㎡を測る。柱穴は住居跡の中央に1基検出した。長径24cm、短径22cm、深さ20cmの円形である。他は、検出されず。また、住居跡の南東寄りに土坑を1基検出した。長径145cm、短径80cm、深さ32cmの楕円形である。カマドは東壁か南壁側にあると思われたが検出されなかった。遺物は、覆土中や床面から須恵器、大甕片、高台碗片、土師器、甕片、灯明皿(土師質)、灰釉陶器皿、土坑より須恵器高台碗、大甕片、灰釉陶器高台碗、柱穴より須恵器高台碗片が検出された。また、掘り方面からは緑釉陶器高台碗が検出されている。時期は遺物から9世紀～11世紀にあたると思われる。図示した遺物はNo.1～12である。

## VI ま と め

今回の調査は㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店の社屋増築工事に伴うもので平成3年度前田II遺跡(400㎡)、7年度前田III遺跡(174㎡)に次ぐ3回目の調査であり面積も合計(727㎡)におよぶ。(第5図前田VII遺跡・前田II遺跡・前田III遺跡・遺構検出状況関連図参照)前田II遺跡では住居跡14軒、柱穴45基、土坑1基を検出し、遺物も土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品など9世紀～10世紀代のものが検出されている。

前田III遺跡(市調査団)では住居跡2軒と土坑2基、貯蔵穴1基、落ち込み跡などと土師器甕、坏など9世紀ころのものが検出されている。

本調査区では、前田II、III調査区と同じく遺構確認面まで深く、カクラン部分が多い状況であった。その範囲で住居跡が1軒検出された。平面形は方形で規模は小さい、壁高は低く、床面は堅緻であった。その面に、柱穴や貯蔵穴と思われる土坑など各1基が検出された。また、カマドは東壁か南壁側にあると思われたが住居跡確認面において検出されず、東壁側にサブレンチを入れ調査したが焼土等の検出はなく、南側は、カクラン範囲にあたることからいずれも検出できなかったが床面や壁面に焼土、炭化物の分布が見られることからカマドの存在が推測される。また住居跡の掘り方面において緑釉陶器が検出された。灰釉・緑釉陶器は関東地方に於いて9世紀頃に東海地方などから搬入があったとされているもので一部の人人々に供給され使用された陶器と思われる、周辺地域とのつながりを示すものである。また、3次の調査では、いずれも9～11世紀代の遺物を伴う住居跡の検出があったことで集落の一端を形成していることがわかる。さらに、調査区から50m程に位置する前田遺跡の住宅団地造成道路部分の調査では住居跡38軒、溝跡25条、井戸3基、土坑5基や柱穴群、水田跡などが検出され遺物も9世紀後半代～10世紀後半代のもものが検出されている状況から本調査区を含めた周辺地域では、9世紀～10世紀頃を中心に集落を形成していたことがわかる。前橋台地の南東に位置するこの地域では古くは、広瀬古墳群が調査区の北側に位置し古墳文化の存在が垣間見られ平安時代では、住居跡と生産域があったことがうかがえる。また、中世以降では、周辺地域の調査などによって中世城館址などが存在した地域である。

## 出土遺物観察表

法量は①口径②底径③高台径④器高⑤長さ⑥喉⑦厚さ⑧重さを表す。

No	出土位置	器形	法量	①胎土②焼成③色④残存	成・整形方法	実測図	図版
1	H-1 No 7	須恵器 甕	①(20.0) ④(7.3)	①細粒②良好(還元) ③褐灰④口縁一部	口縁部外反し口唇部に深い凹帯が一帯走る。 内外面輪軸整形。	第7図	4
2	H-1 No 4.7	(土師質) 灯明皿	①(9.6) ②(5.6) ④2.5	①細、中粒②良好(酸化) ③鈍い黄褐色④1/2	平底の底部より外傾し立ち上がり口縁部で外反す。 内外面輪軸整形。内面係付溝。底部糸切り痕。	"	"
3	H-1 No 5.5	灰輪陶器	①(14.0) ③(6.8) ④2.9	①細粒②良好(還元) ③白灰、輪は灰オリーブ	底部割れ痕。高台回転割り出し、内外面体部 産物。底部割れ痕。	"	"
4	H-1 No 6.0	緑釉陶 高台埴	①(18.4) ③(7.4) ④6.1	①細粒②良好(還元) ③緑④底～口1/3	割り出し高台、底部縦やかに立ち上がり口縁 部で短く外反す。内外面輪軸整形産物。	"	"
5	H-1 No 6.2	土師器 小型甕	①(14.0) ④(8.3)	①細粒②良好(酸化) ③灰黄褐色 ④口～体部一部	胴部上位に膨らみをもって内湾し弱い「コ」 の字状の口縁に至る。外面口縁部指差圧痕。 胴部へう割り、翼付差、内面輪軸痕あり。	"	"
6	H-1 No 6.3	須恵器 高台埴	①(13.6) ③(6.4) ④5.0	①細粒②良好(還元) ③黄灰④1/2	低い高台より体部縦やかに内湾し口縁部で短く外 反す。内外面輪軸、底部右面糸切り未調整。	"	"
7	H-1D-1 No 5・8・9	須恵器 高台埴	①(15.5) ③7.5 ④7.0	①細粒②良好(還元) ③灰白④1/2	高台を付した底部より縦やかに内湾し口縁部 で外反す。内外面輪軸、底部回転糸切り 後貼付高台部。	"	"
8	H-1D-1No.4 No 1.8	須恵器 大甕		①細粒②良好(還元) ③灰④体部片	外面横斜め方向の櫛目状の撫で痕あり。	"	"
9	H-1D-1 No 1.5	灰輪陶器 高台埴	①(15.8) ③(7.8) ④5.9	①細粒②良好(還元) ③褐灰、胎は灰白④1/2	高台を付した底部から縦やかに内湾し口縁部 に至る。内外面輪軸整形、裏掛け匙状内面重 ね痕あり。底部回転へう調整貼付高台。	"	"
10	H-1D-1 No 2.1	須恵器 高台埴	①14.0 ③7.3 ④5.0	①細粒②良好(還元) ③灰黄褐色④底部	底部、右面糸切り後貼付高台一部つよれあり、内 外面輪軸整形、内面口縁付近一部引き集あり。	"	"
11	H-1D-1 No 1	須恵器 高台埴	①(14.0) ③6.6 ④5.0	①細粒②良好(還元) ③褐灰④口縁一部欠損	低い高台より体部内湾気味に立ち上がり口 縁部で外反す。内外面輪軸整形、底部回 転糸切り後貼付高台。	"	"
12	H-1D-1 S-1	石	⑤10.0 ⑥9.0 ⑦(2.0) ⑧340	④完形	円礫石器、安山岩、両面使用痕。	"	"

註)表の記載は以下の基準で行った。

1 胎土は細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、

粗粒(2.0mm以上)とした。

2 焼成は、極良、良好、不良の3段階。

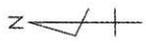
3 大ききの単位はcm.gであり、( )は推定値及び現存値を記載した。

4 遺物の略称は、住居跡・H、土坑・Dで表した。

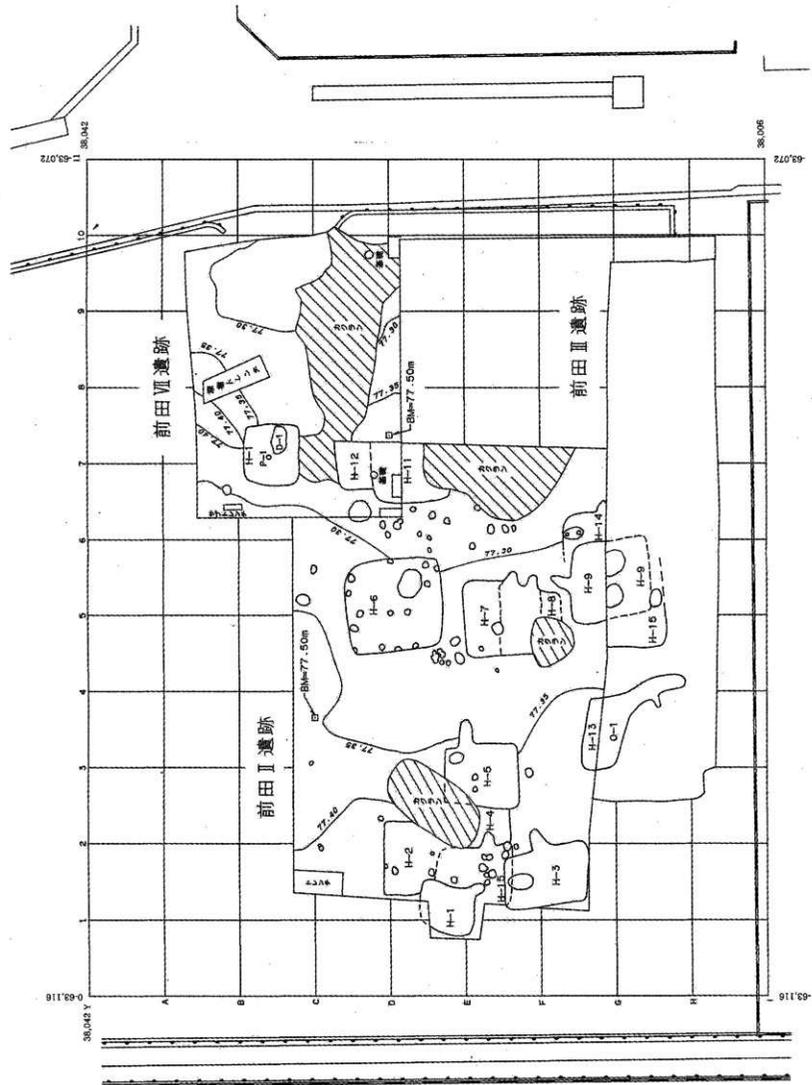
5 出土位置のナンバーは、検出位置を示す。

## 参考文献

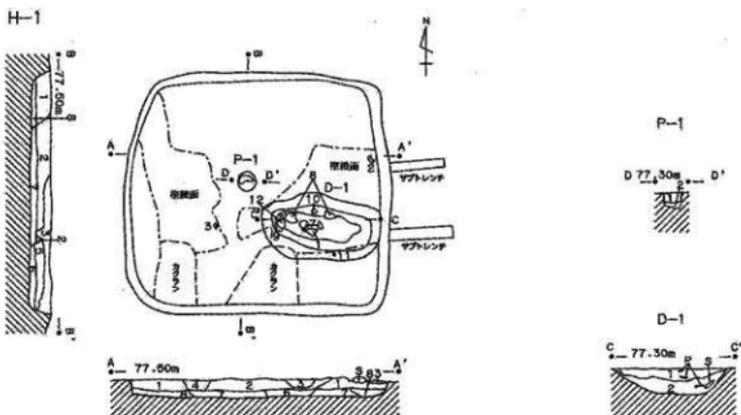
前橋市史第一巻	1971	前橋市史編さん委員会
芳賀東部団地遺跡Ⅱ	1988	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前田遺跡	1991	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
宮地中田遺跡	1997	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
西善尺司Ⅱ遺跡	1998	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
下増田越渡Ⅲ遺跡	1998	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
天平に咲いた華 日本の三彩と縁軸		五島美術館



S=1/200



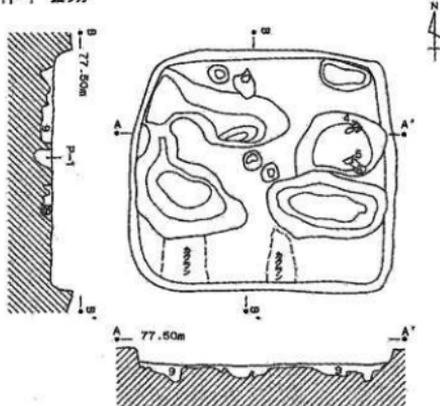
第5圖 前田Ⅰ遺跡・前田Ⅱ遺跡・前田Ⅲ遺跡・遺構線図



H-1 土層注記 (A-A'、B-B')

1. 黒褐色土層 粘性 締まりあり Hr-FP2~5mmを1%以下含む炭化物をわずかに含む
2. 黒褐色土層 粘性 締まりあり Hr-FP2~5mmを1%と炭化物、炭土粒を所々に含む
3. 黄灰色土層 砂、小礫、木片、ビニール含む(カクラン層)
4. 黒褐色土層 炭化物 黄褐色土粒と3層を含む(カクラン層)
5. 黄灰色土層 3層に鈍い黄褐色粘質土を含む(カクラン層)
6. 鈍い黄褐色砂質土層 黄灰色土ブロックを含む
7. 黒褐色土層 粘性 締まりあり 炭化物を多く含む、炭土粒と鈍い黄色砂質土ブロックを所々に含む
8. 黒褐色土層 粘性 締まりあり 鈍い黄色砂質土ブロックと炭化物をわずかに含む
9. 黒褐色土層 粘性 締まりあり 鈍い黄褐色砂質土ブロック2~5cmを所々に含む炭化物を全体に含む(掘り方セクション)

H-1 掘り方



H-1 P-1 土層注記 (D-D')

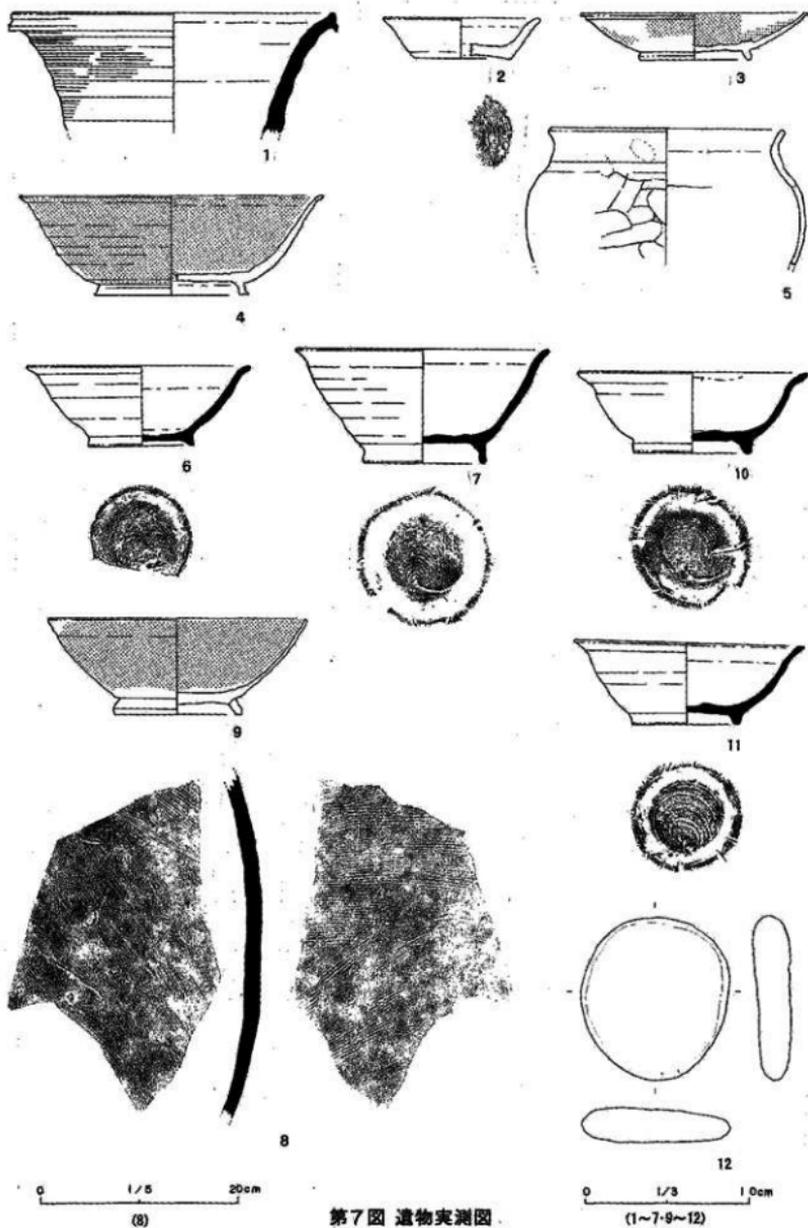
1. 褐灰色土層 粘性 締まりあり 炭化物と明黄褐色砂質土ブロックを所々に含む
2. 褐灰色土層 粘性 締まりあり 炭化物をわずかに含む

H-1 D-1 土層注記 (C-C')

1. 黒褐色土層 粘性 締まりあり Hr-FP2~5mmを1%と炭土、炭化物を1%以下含む
2. 黒褐色土層 粘性 締まりあり Hr-FP2~3mmを1%以下と炭化物と明黄褐色砂質土ブロックを所々に含む

0 1:60 2m

第6図 H-1号住居跡、P-1、D-1、H-1号住居跡掘り方実測図



第7圖 遺物実測図



調査前現況(東より)



表土掘削状況



遺構確認面掘削状況



深掘り状況



作業状況



作業状況



調査区カクラン状況



H-1号住居跡全景(北から)



H-1号住居跡遺物出土状況



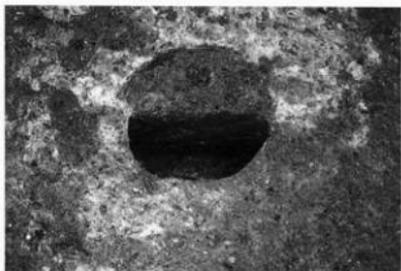
H-1号住居跡遺物出土状況



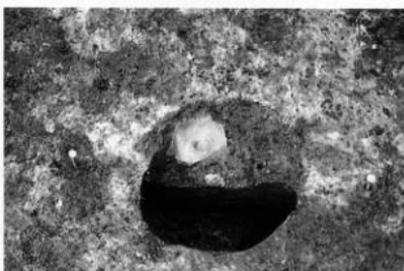
H-1号住居跡遺物出土状況



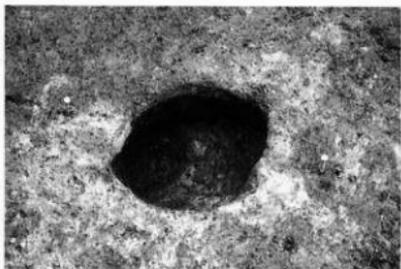
H-1号住居跡遺物出土状況



H-1号住居跡 P-1 セクション



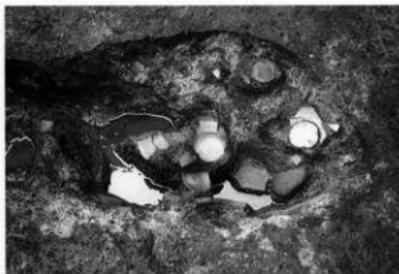
H-1号住居跡 P-1 遺物出土状況



H-1号住居跡 P-1 完掘



H-1号住居跡 D-1 セクション



H-1号住居跡 D-1 遺物出土状況



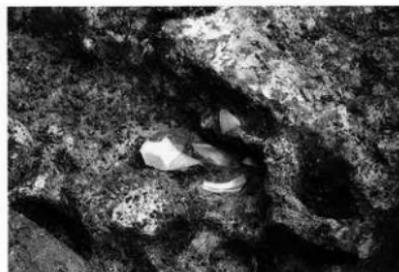
H-1号住居跡 D-1 完掘



H-1号住居跡 完掘



H-1号住居跡掘り方セクション



H-1号住居跡掘り方方面遺物出土状況



H-1号住居跡 掘り方 完掘

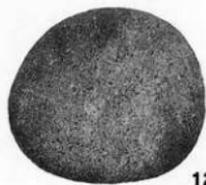


調査区全景(東から)



調査区全景(北から)

图版4



## 抄 録

フリガナ	マエダナナイセキ
書名	前田Ⅶ遺跡
副書名	㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店社屋増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	スナガ環境測設株式会社 荻野博巳
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2000年12月7日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
マエダナナイセキ 前田Ⅶ遺跡	マエダナナイセキ 前橋市東善町	10201	12G7	36°20'17"	139°07'54"	20000920 20001015	153㎡	社屋増築 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
前田Ⅶ遺跡	住居跡	平安時代	住居跡 1 軒	土師器 須恵器 緑釉陶器高台塊、 灰釉陶器皿、塊

## 前田Ⅶ遺跡

2000年11月30日 印刷

2000年12月7日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市三俣町二丁目10-2  
編集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地の1  
印刷 上越印刷工業株式会社  
前橋市小神明町575-1